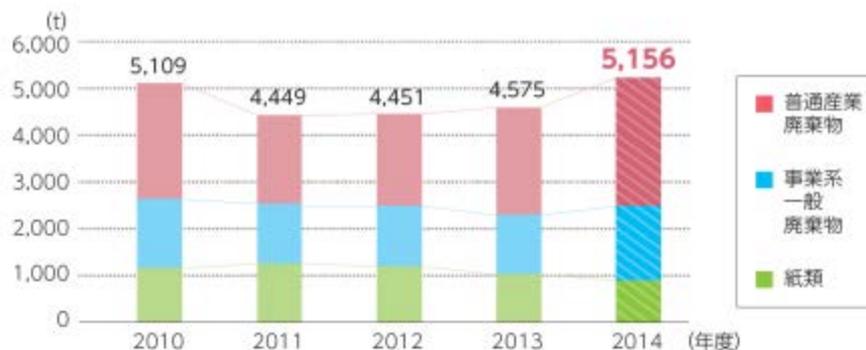


環境負荷低減・環境汚染防止に 資する大学運営

公共政策教育部2年
佐川 城一

京都大学における現状①～3R対策～

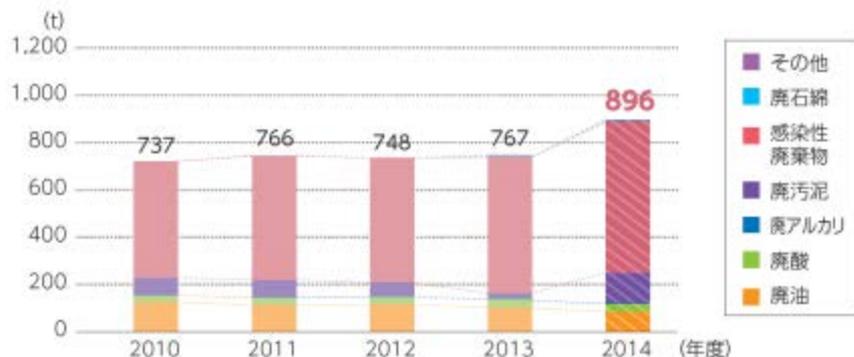
●生活系廃棄物排出量



- 生活系廃棄物は前年比で12.7%、実験系廃棄物は、16.8%増加

- 前者は改修や新築移転による物品整理が原因、後者については検証中

●実験系/特別管理産業廃棄物排出量



- 京都市の条例で、大学に対して画学生への分別ルールの周知、啓発等が義務付け

京都大学における現状①～3R対策～

※本学の取り組み～オフィス家具リユース～

- 施設の移転・改修によって不要になったオフィス家具などを再利用
- 今年度はベンチャービジネスラボラトリー棟(VBL棟)で生じた不要物品の引き渡し会を実施
- 廃棄物処分量の削減および新規購入の経費削減に貢献



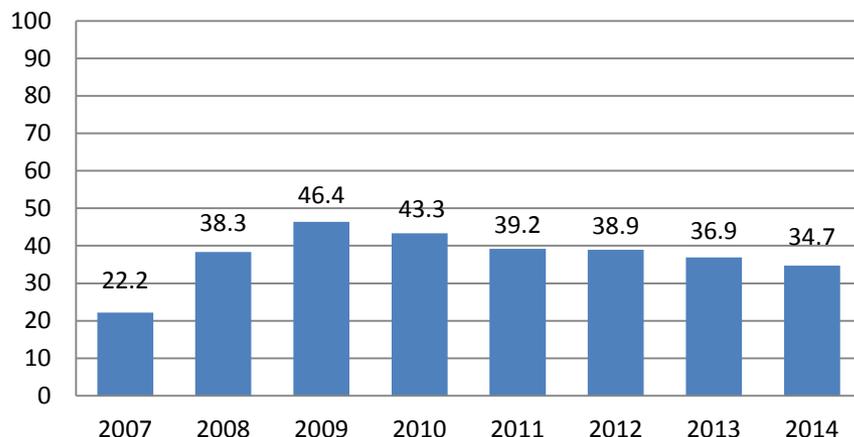
京都大学における現状①～3R対策～

※本学の取り組み～はがす弁当容器～

- 各生協店舗にて販売される弁当容器をはがして回収することによりリサイクル可能に
- 回収率はピーク時より減少、回収率回復・増加に向けた対策が必要



はがす弁当回収率(%)

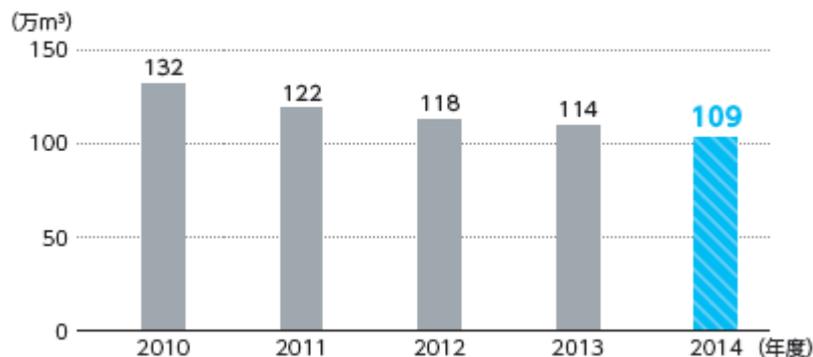


店舗ごとの回収状況(2014)

回収店舗	枚数	回収率
時計台生協ショップ	11,506	40.0%
吉田購買部	4,413	31.1%
吉田食堂	5,251	70.2%
北部購買部	7,780	44.2%
南部購買部	3,462	26.5%
桂ショップ	8,294	36.2%
他	4,707	17.6%
合計	45,413	34.7%

京都大学における現状②～節水対策～

●水使用量



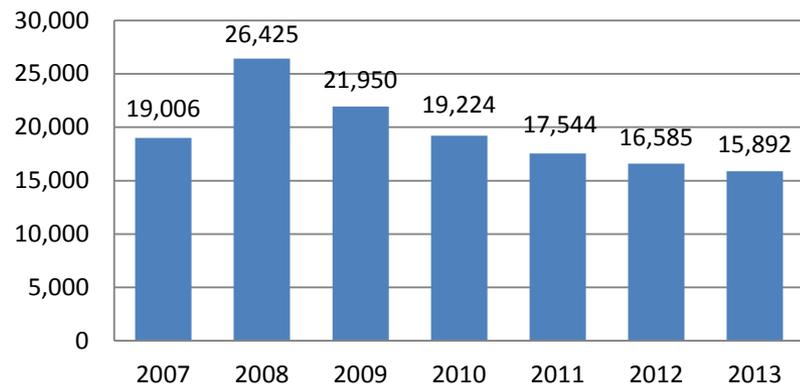
- 水使用量は前年度比で4.3%減、ここ5年で17%減
- 節水機器の導入、実験設備やトイレの節水化を呼びかけ
- 今年新設された国際科学イノベーション棟では、雨水を地下のタンクに貯蔵し、トイレの水洗に利用する設備が導入

●水使用量原単位

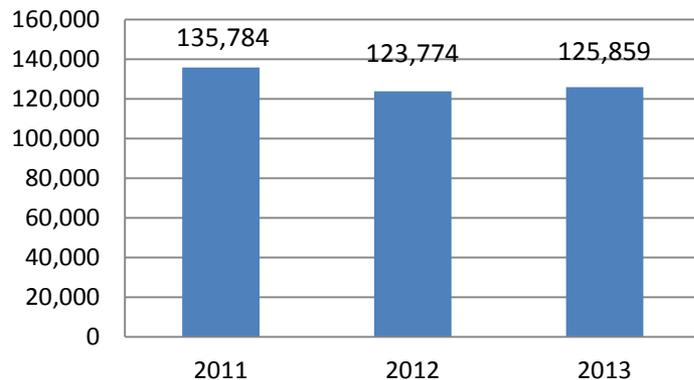


京都大学における現状③～食料～

廃食用油回収量(t)



食堂部門廃棄物計量(kg)



- 廃食用油はここ数年減少傾向、ピークの2008年より10000t減
- 食堂部門廃棄物は2011年より約10000kg減少したが、2012年よりよりは増加
- 廃棄物を食堂別に見た場合
吉田南、北部、桂→減少傾向、
宇治→微減
南部、西部→増加傾向
本部→微増

京都大学における現状③～食料～

※本学の取り組み～石割京大農園～

- 農学研究科・間藤教授と農家・石渡さんにより、北部キャンパス東南端の官舎跡(約320m²)に農園を開設
- 学生、教員の有志による農作業
- 収穫した野菜はカンフォーラでも利用(地産地消に貢献)



京都大学における現状③～食料～

※本学の取り組み～京大ブルーシーフード～

- 農学海洋環境保全を目的とするNPO法人「セイラーズ・フォー・ザ・シー」と京大生協による取組
- 資源量が比較的豊富な魚種を利用している料理に認証マークをつけることで、環境負荷の低い料理を消費者に進めるもの
- 「セイラーズ・フォー・ザ・シー」はレストラン等と提携してこの取組を推進、大学生協としては京都大学が初



京都大学における現状④～購入～

※グリーン購入・調達について

- 国等による環境物品等の調達の推進等に関する法律に基づき、毎年「環境物品等の調達の推進を図るための方針」を策定、公表
- 調達方針に沿って紙類、文具類、事務機器類をはじめ多数の物品、その他公共工事などを特定調達項目として目標を設定
- 2014年度においては目標を100%達成

京都大学における現状④～購入～

※グリーン契約(環境配慮契約)について

- 環境配慮契約法により、温室効果ガス等の排出の削減に配慮した契約の推進を図るように努める
- 2014年度の実績
 - 吉田(病院を除く)、病院、宇治、桂、犬山、熊取地区の電気の調達について環境配慮契約が締結
 - 第一臨床研究棟において、省エネ対策のためフィージビリティ・スタディを実施の上、該当施設を含むギャランティード・セイビングス契約による設備更新型 ESCO 事業を実施
 - 設計業務6件について、温室効果ガス等の排出の削減に配慮する内容を含む技術提案を求め、総合的に勘案してもっとも優れた技術提案を行った者を特定する環境配慮型プロポーザル方式を採用

他大学における取組①

※北海道大学～北大マルシェ～

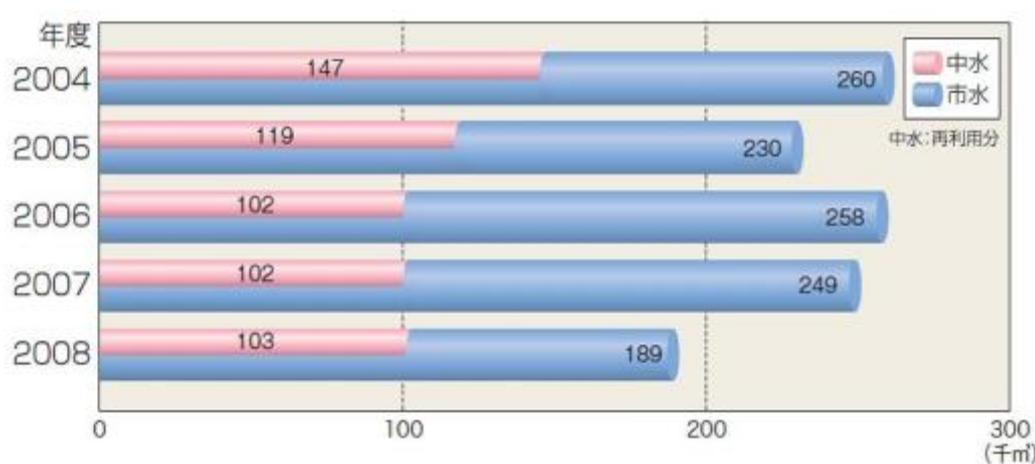
- 北海道で採れた農産物、加工品を生産者が大学で出店・販売
- 生産者と消費者との交流を重視、ファーマーズカフェ等の交流企画、生産現場の様子を消費者に伝えるためのディスプレイ、北大農場ツアー



他大学における取組②

※島根大学出雲キャンパス～節水対策～

- 中水(一度生活水として利用した水を下水道に流すまでもう一度トイレの流水などに再利用する方法)貯水タンク1機(200t)から2機に増設
- 節水ゴマ487個、女子トイレ擬音装置を設置。エアコンを水冷式から空冷式へと転換



07年度料金	1億2370万円
08年度料金	9460万円
減価償却額	326万円
節約コスト	2584万円

※島根大学環境報告書2009より

他大学における取組③

※三重大学～MIEUポイント～

- 学生と教職員による自主的な環境活動の取り組みを見える化(ポイント化)し、獲得ポイントを、環境配慮製品などに交換する制度



※三重大学国際環境教育研究センターHPより

海外における取組

※Harvard University

- 大学全域の水の使用量を2020年までに2006年比30%削減
- サステナブルシーフードの導入
- 学生主導の取組により食堂の廃棄物54%減を達成
- Harvard Standardsに合った、環境に配慮した商品の購入

※Yale University

- 水道利用を2016年までに2012年比8%削減
- 2020年までに植物由来の料理の提供を2倍に
- オフィス関連製品及び紙の購入を2013年比10%削減を達成

京大における課題

※数値目標および達成率の明確化

- HarvardやYaleでは、水や廃棄物の削減目標を「いつまで」に「どの水準」から「どの程度」削減するかを数値で明確に示し、達成度も公表
- 京大の環境報告書では、単位面積あたりのCO₂排出量については、年平均で前年比毎年2%削減との数値目標を掲げているが、その他の分野において明確な数値目標が記されていない
- 単なる減少(増加)傾向のみでなく、目標値への達成度から毎年の取組を評価する仕組みが必要では？

※一部の人の取り組みから全学生が当事者に

- 現在の京大では、環境配慮行動が多くの学生に浸透しているとは言えない(弁当容器回収率、生活系廃棄物)
- いかに全学生に当事者意識をもってもらおうか

ご静聴ありがとうございました！

